

自己点検・自己評価項目 (2024 年 04 月 01 日)

上尾国際教育センター (AIEC)  
理事長 秋本秀樹

## 自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1.教育理念・目標等	評価
1-1 教育理念・目標の設定	5
1-2 教育理念・目標の点検・見直し	5
1-3 将来構想	5

## 現状・具体的な取り組み・課題

本校は、日本の大学院、大学、短期大学あるいは専門学校へ進学を希望する外国人に対する日本語教育を行い、日本の文化・社会に対する正しい理解を深め、もって日本及び国際社会の発展に寄与する人材を育成するという理念のもと2016年10月の創立以来、外国人人材を日本社会や世界に送り出してきた。この目的を実行するために、本校では学習到達レベル別のクラスを設置し、高等教育機関進学に不可欠な日本留学試験・日本語能力試験に合わせたカリキュラムを採用している。

また本校はベトナム、タイ、フィリピン、インド、ミャンマー、ネパール、スリランカ等の国や地域からの留学生を受け入れている。

今後の構想として以下に注力する。

1：学習者の多様な進学ニーズに応えるべくアカデミックジャパニーズの幅と質のさらなる向上。

2：日本の政策による影響もあり、入学後に進学から特定技能への移行を希望する学習者が増加している。このために付加的な日本語授業の充実と特定技能試験の支援体制も整備し、外国人材の日本社会への就労にも貢献する。

2.教育活動	評価
2-1 学生の受入れ	
2-1-1 学生募集・入学者選抜の方針・方法	5
2-1-2 学生定員充足状況（入学者数,在学者数等）	5
2-2 学生生活への配慮	
2-2-1 奨学金制度（独自の褒賞金）	4
2-2-2 授業料減免の状況	3
2-2-3 住居状況	5
2-2-4 学生生活相談（アルバイトを含む）	5
2-2-5 課外活動	5

2-3 カリキュラムの編成	
2-3-1 カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係	5
2-3-2 進学対策教育の内容とカリキュラム全体における位置付け	5
2-3-3 カリキュラムの編成及び見直しの方法	5
2-4 教育指導の在り方	
2-4-1 各授業科目の授業計画（シラバス）の作成状況	5
2-4-2 カリキュラム・ガイダンスの実施状況	5
2-4-3 教員1人当たりの授業時間数	5
2-4-4 各試験等の実施状況	5
2-4-5 視聴覚教育の実施状況	5
2-5 教授方法の工夫・研究	
2-5-1 教授方法の工夫・研究のための取り組み	5
2-5-2 教員の教育活動に対する評価の工夫（学生による授業評価等）	5
2-6 成績評価，単位認定	
2-6-1 成績評価，単位認定の在り方・基準	4
2-6-2 日本留学試験(EJU)結果の分析と対策	4
2-6-3 日本語能力試験(JLPT)結果の分析と対策	5
2-6-4 卒業生の進学状況	5
2-6-5 卒業生の就職状況	5

——— 現状・具体的な取り組み・課題 ———

当校は埼玉県上尾市位置するが、さいたま市と連携してウクライナ避難民を受入れ、さいたま市からの受入れに関しては、2年間の学費（教材費含む）を免除し、ウクライナ避難民の支援を実施している。私費留学生学習奨励費は学内選考基準により透明性のある選考を実施し、出席率優秀者への褒賞も設けている。生活指導担当は学生の学習状況と生活状況を把握し、問題がある場合は速やかに個人面談を実施し早期解決に努める。学生寮も定期的に巡回し、生活状況を把握し適切な指導を遂行する。資格外活動の調査に関しては、年2回（6月末・12月末）の調査により各学生の状況を適切に把握している。また、学生間及び学生と教員間の結束を強めるため学内発表会や校外授業を適切な時期に実施している。カリキュラムに関しては、2年次6月の日本留学試験と12月の日本語能力試験を優先したカリキュラムを実施しているが、より口語能力に注力するため、これに沿った教材を選定している。最新の授業計画はHPで公表すると同時に、各コースの在籍期間における到達度も提示している。本校の定期試験は到達度に応じた試験であり、学内の試験に加え到達度に見合った日本語能力試験模試を実施している。全ての教室にプロジェクターを常時設置し学習の効率化と活性化を図る。学習の評価に関して告示基準で認定を受けている評価に加え、CEFRにおける評価も視野に入れ、評価のための試験改定にも取り組んでいる。クラス間や過去の試験との平均点、標準偏差等のデータを比較することで適切な学習評価を遂行している。進学状況と進学先、就職状況はHP上に公表する。

3 教員組織	評価
3-1 専任教員・非常勤講師の配置状況	5
3-2 教育補助者，研究補助者の配置状況	5
3-3 年齢構成、性別構成	4
3-4 採用、昇進の手順・基準	5
3-5 教員の兼職の方針と状況	5
3-6 教員人事についての長期計画	5

—— 現状・具体的な取り組み・課題 ——

現定員数(100名)に対し、定員必要教員数を超える人数で運営し、学習の質を維持向上させている。校長主任教員と副校長が教員組織の中核を担う。教員の年齢構成は30代～70代と幅広く、性別構成は全て女性となっている。日本語教育業界においては男性教員の比率が低いですが、今後は男性教員の確保と、比較的若い20代教員の確保にも努めていきたい。教員採用においては書類審査と面接、模擬授業を実施する。非常勤教員の兼職は認めるが、他校における勤務時間数の届け出を必要

4 施設設備	評価
4-1 施設設備の整備・運用状況	5
4-2 図書館・自習室の利用状況	4

  

5 管理運営，財政	評価
5-1 事務組織	5
5-2 予算の編成と執行の方針と状況	5

  

6 自己評価体制	評価
6-1 自己評価を行うための組織	5
6-2 教育成果(EJU、JLPT、進学先等)の公表	5
6-3 評価をフィードバックするためのしくみ	5